

## 平成27年9月の大阪森林便り



### 鋼材・合板、在庫が減少 6月末 産業資材に減産効果

主要な産業資材と燃料の業界団体がまとめた6月末の在庫は、鋼材や針葉樹合板、合成樹脂など幅広い品目で前月末と比べて減少しました。針葉樹合板は減産効果に加えて、出荷も回復しており、需給の緩和感は薄らいでいます。

(2015年8月5日 日本経済新聞記事から抜粋)



### 南洋材合板 原料高が直撃 上昇ピッチ急、転嫁しきれず

メーカー 国産シフトや設備効率化

#### マレーシア産丸太価格は3年前に比べ約4割上昇

マレーシアやインドネシアの丸太で製造する南洋材合板の業界を原料高が直撃しています。価格だけでなく、数量にも影響が広がります。

南洋材合板：合板の生産量は年間約281万m<sup>3</sup>。住宅の壁や床に使われる構造用が9割を占めます。合板の原料となる丸太の需要は全体で418万m<sup>3</sup>で、国産の針葉樹が7割程度。南洋材丸太は5%程度。

(2015年8月5日 日本経済新聞記事から抜粋)



### 北米産丸太が2か月連続上昇 対日8月積み

北米産丸太の対日価格が2か月連続で上昇。現地の業者が伐採量を削減し、需給が引き締まっています。

(2015年8月5日 日本経済新聞記事から抜粋)



### 集成材価格に底入れ感 2~3割減産で需給締まる

住宅の柱や梁として使う集成材の価格に底入れ感が出てきました。円安で欧州から仕入れる原材料価格も上昇しています。

(2015年8月8日 日本経済新聞記事から抜粋)

## 丸太輸出 4 割増 — 1～6 月 アジア向け好調

丸太輸出が増えています。1～6月の輸出量は、前年同期と比べ4割多い32万m<sup>3</sup>。中国や台湾などアジア向けが好調でした。中国向けは4割増えました。中国が輸入する丸太のうち、日本からのものは全体の1%未満。(2015年8月11日 日本経済新聞記事から抜粋)

## 吉野の林業 元気に 奈良・川上村と関連 4 団体

### 生産・人材育成へ新組織

奈良県川上村と林業関係4団体が、林業再生を目指して任意団体「吉野かわかみ社中」を設立しました。

山林所有者や森林の管理・伐採などを行う事業者、木材加工業者、木材流通を担う事業者らが別々に活動していましたが、団結して山林の維持・管理や製品生産、林業に携わる後継者の育成などに一貫して取り組みます。

(2015年8月12日 日本経済新聞記事から抜粋)

## 南洋材丸太、横ばい続く 7 月積み対日 商社が買い抑制

南洋材丸太の対日価格が横ばいです。マレーシア産丸太は3か月連続で同値圏。丸太の高値を警戒した日本の商社が買い付けを抑えています。

(2015年8月27日 日本経済新聞記事から抜粋)

## 国産合板、半年ぶり高値 原料の丸太にも先高観

### 取引価格 在庫減、住宅需要は回復

国産合板の取引価格が大幅に上昇し、半年ぶりの高値を付けました。大手メーカー各社が7月以降減産に取り組む一方、住宅需要がやや回復し在庫調整が進んできました。原料となる丸太価格のも先高観が台頭し、取引価格が一段と上昇する見通しが強まっています。

国産構造用合板は、7月初旬の直近安値に比べて9%上がりました。合板メーカー各社の減産は、前年の最も多かった時期と比べて生産を2～3割減らしています。7月の全国メーカー生産量は前年同月比6.4%減少しました。7月末の全国在庫量は、前年同月末比18%減りました。木造住宅の着工戸数は、3月から6月まで4か月連続で前年同月を上回りました。丸太価格にも先高観があり、6月まで5か月連続で下落しましたが、7月は横ばいです。

合板各社は9月以降も減産による在庫調整を続ける考えです。

(2015年8月29日 日本経済新聞記事から抜粋)



## セミナー「木材と健康維持増進！」

### ☆スギ材を住まいに活かし、健康で快適な生活を

- ・杉は日本固有種。
- ・正倉院の建物の多くは桧。中の家具類は杉が多い。
- ・正倉院の温湿度変化・・・唐櫃内は湿度がほとんど変わっていない。
- ・人が必要とする空気は約20kg/日。
- ・体外から取り入れるものの約9割が空気。
- ・一日のうち、屋内で過ごす時間が9割。
- ・劣悪な室内空気質は、子供の集中力、計算力、記憶力に影響を与える。(2,008年米国環境保護庁報告)
- ・木材の木口と心材の方が、NO<sub>2</sub>（二酸化窒素）吸収吸着効果が高い。
- ・木片よりも木粉の方が吸着機能が高い。
- ・木口表面に近いほど吸着効果が高い。木口面の吸着は、表面から約3～5mmの範囲で生じており、表面に近いほどその効果が高い。
- ・繊維方向に沿ってスリットを入れると効果的。
- ・人口乾燥時に、乾燥温度が高いと木材の抽出成分が下がり、除去機能も下がる。
- ・最適湿度範囲・・・40～70%：人体の快適性、40～75%：書類の保存、0～80%：カビ防止。
- ・木質住環境の見えと心理評価実験・・・スギスリット材を壁の内装に用いた部屋に入り事で、人は生理的に落ち着いた状態となること、つまりリラックスできることが分かった。

(京都大学総合生存学館 川井 秀一名誉教授講演)

### ☆環境医学的見地から見た木の香りや成分の上昇が室内の雰囲気改善に及ぼす効果

- ・室内環境実験・・・スギ材からの放散物としては、セドロールとβオイデスマールが特異的に室内から検出された。
- ⇒自律神経活動の抑制効果や、神経栄養因子の合成を促進させる効果などが報告された。  
⇒ストレス緩和、良質な睡眠、疲労回復。
- ⇔室内環境の調節機能（温度・湿度・空気浄化）・環境改善の効果（落ち着き・温かみ・明るさ）(近畿大学医学部 東 賢一准教授講演)

### ☆大阪府環境農林水産部みどり推進室より

- ・大阪府の森林の概況・・・森林面積：府域面積に占める割合約30%。
  - ・大阪は、都心から山までの距離が近い・・・大阪：約20km、東京：約45km。
  - ・大阪府の山の状況・・・標準伐期齢≪杉8齢級（40年生）、桧9齢級（45年生）
- ≫を超える割合は、杉85%、桧50%→森林蓄積量が増大。
- (2015年8月19日 大阪府木材連合会セミナーより抜粋)



## 今月の木の話 **なぜ割れがあっても怖くないのか**

長手方向に強い細胞同士が、軸方向（繊維方向）につながっているため、木材は連続体としての強度特性を示しています。

繊維の連続性が断たれると木材の耐力は低下しますが、繊維に沿った少々の割れがあっても、耐力はほとんど低下しません。繊維の連続性を断つような大きな節が欠点となり、繊維を断絶しない割れが欠点にならないのはこのためです。

木材の割れは繊維方向に沿った形でしか発生せず、引っ張り・圧縮・曲げの部材に、少々の割れがあっても大きな強度低下はありません。但し、接合部に関しては、注意が必要です。

（日刊木材新聞社発行「今さら人には聞けない木のはなし」より抜粋）

